

# 農業振興公社だより

## 第二十三回総会（定時）開かれる

角田市農業振興公社の第二十三回総会（定時）が五月三十一日（金）午後六時三十分から角田駅オークプラザイベントホールで開催され、三十七人の会員が出席（議決権行使書出席含め一〇九人）しました。

開会に当たり、大友理事長が、角市の今年産の主食用米の作付目安の状況や、平成二十六年から農地中間管理事業を受託し、平成三十年度は百四十九haの貸し借りの実績になった旨を挨拶しました。大河原地方振興事務所の農業振興部長阿部明様はじめ角田市議会議長柄目孝治様、宮城県議会議員長谷川洋一様よりご祝辞をいただいた後、桜地区の太田照男さんを議長に選出し、「平成三十年度事業の報告と正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録の承認について」「役員選任について」の二つの議案について審議し、全議案とも満場一致で承認されました。



△議長の太田照男氏

「役員選任について」は現役員任期満了に伴い提案されたもので、理事十五名（うち五名新任）と監事二名が（うち一名新任）選任されました。



△総会の様子

### 【退任された理事】

佐藤喜一氏（北郷）、岸浪俊一氏（角田）、佐藤さき子氏（西根）、松沢栄子氏（角田）、八巻裕一氏（桜）

### 【新たに選任された理事】

日下 徳彦氏（西根）、堀米浩二氏（西根）、宍戸明美氏（北郷）、笠松郁子氏（枝野）、三浦 徹氏（西根）

※役員は下記の方々です。（順不同）  
【理事】大友喜助氏、浅野清氏、横山誠一氏、日下徳彦氏

### ◆ 発行 ◆

公益社団法人 角田市農業振興公社  
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四一  
電話 (0234) 63-1331  
FAX (0234) 61-1511  
URL <http://www.kakunou.or.jp/>

E-mail [kakuda@kakunou.or.jp](mailto:kakuda@kakunou.or.jp)

### 大友理事長、浅野副理事長が再任

定時総会終了後、新たに選任された理事、監事が出席して理事会が開かれ、理事長、副理事長の選定が行われました。その結果、理事長に大友喜助氏（角田市長）、副理事長に浅野清氏（JJAみやぎ仙南組合長）が再任されました。

### 一層の満足提供に向けて

～特別会員農産物生産者の会議開く～

角田の農産物を毎年楽しみにしていただいている特別会員の皆様にお届けするための生産者打ち合わせ会が六月六日、角田市農業振興公社、会議室で開催されました。

この会議は、特別会員の皆様に喜んでいただける農産物を生産し、お届けしようとする年開催している会議で米、梅干し、長いも、梨の生産者ら七名が出席いたしました。

会議では、事務局から昨年度までの申込口数の推移及び申込者からのアンケート結果、農畜産物の品目別基準等の説明がなされました。アン



△活発な意見を出し合う生産者

ケートの内容については、普段スーパーで購入しているものとは全く違う美味しさでびっくりした、食べた家族や友人達にも評判が良かった等とも満足しましたという意見が多く、また次回も購入したいという意見をいただきました。今後も利用者と生産者のコミュニケーションがとれるよう打ち合わせが行なわれました。最後に、特別会員事業にご賛同していただいている会員の皆様に、より満足していただけるよう生産者の皆様と角田市農業振興公社が一体となり対応して参りたいと存じます。今年度も募集案内を発送しておりますのでよろしくお願いたします。



### 角田市農業機械銀行の 通常総会が開催されました

去る四月十六日（火）午後六時より仙南シンケンファクトリーセミナーホールにおいて角田市農業機械銀行（理事長 菊地勝治／会員数三十人）第四十五回通常総会が開催されました。来賓に角田市農林振興課課長堀米浩二氏、JAみやぎ仙南代表理事組合長浅野清氏を迎え、本人出席十三名、委任状出席七名、計二十名の出席で開会。



△あいさつする菊地理事長

はじめに菊地理事長から、角田市農業機械銀行も後継者不足と高齢化により農業から引退する農家が増え、農作業一部委託から農地利用集積円滑化事業、農地中間管理機構を活用し全面委託に移行し受託面積が減少傾向にあり、それに伴い会員も減少はしているのが現状であります。しかし今後とも需要がある限り会員並びに角田市・関係機関とも密接に連携

し、地域農業振興のため頑張りたいとの挨拶がありました。

続いて、堀米課長より角田市の農業の現状・農政講演会の開催・道の駅オーブンについてお話しがあり、JAみやぎ仙南浅野組合長からは、四十五年間の機械銀行の果たしてきた役割は大なるものがあると激励を受け、また、JAを取り巻く情勢についての挨拶をいただき、その後、議長に北郷地区の森谷茂さんを選出、事業報告や収支決算、今年度の事業計画・予算（案）・役員選任など第一号、第七号議案まで慎重審議を行い原案とおり承認されました。

総会終了後場所を変えて懇親会が行われ、終始和やかな雰囲気の中で、遅くまで情報交換とさらなる親睦を深めました。

### 角田市農業経営者会議の 通常総会を開催しました

角田市農業経営者会議（森谷茂会長 会員五十四名）は、六月七日「ふる里」において通常総会を開催し、平成三十年度事業報告及び収支決算書の承認など五案件を審議し、全議案とも承認されました。会議には二十九名（本人出席十名）の会員が出席し、はじめに森谷会長が開会挨拶を述べた後、大友市長よりご祝辞（堀米農林振興課長代読）を頂戴いたしました。

事業報告では、全国農業担い手サミット及び仙南地域担い手ネットワ

ーク研修会への参加及び認定NPO法人ふるさと回帰支援センターの高橋理事長をお招きして「ふるさと回帰運動のいまを語る」というテーマで講演会を開催したこと、健康増進事業（破傷風予防接種・脳検診）の内容等の報告がなされました。

本年度も農業経営者会議としては恒例の市長との農政懇談会をはじめとし、安心・安全な農作業に従事していただけるよう健康増進活動を今後とも継続していくとともに視察、セミナー及び講演等に対して積極的に参加、開催し個々の農業経営に対する知恵、情報等を多くの会員と共有しながら角田市の農業発展に努めていくとしています。

最後に役員改選の結果、会長・森谷茂氏、副会長・三浦徹氏、星光彦氏、会計・佐藤竜治氏、監事・伊藤稔氏、佐藤清彦氏、白戸康一氏が選出されたのでご報告いたします。



△あいさつする森谷会長

### 純米大吟醸 『牟宇姫』を堪能！

かくだの地酒を楽しむ会（岸浪俊一会長）では、今年も純米大吟醸『牟宇姫』を楽しむことを目的に、四月十九日、仙南シンケンファクトリーを会場に「会員の集いと『牟宇姫』を楽しむ会」を開催しました。

当日は、大友角田市長並びに新澤醸造店の浅野様のご臨席のもと、市内外から女性も含め四十四名にも及ぶ『牟宇姫』ファンクラブの参加をいただきました。また、地元出身の荒川隆前農水省局長も飛び入り参加いただきました。『牟宇姫』はやっぱり美味いとの声がいっぱいで、用意した新酒はあっという間に飲み干してしまいました。会員からは「来年まで待てない」、「もっと飲みたい」との声がしきりでした。会員の紹介で参加した女性も、飲みやすくておいしい是非来年は会員になりたいとキャンセル待ちに登録していただきました。来年楽しみにお待ちしております。

※純米大吟醸『牟宇姫』は、かくだの地酒を楽しむ会が企画して大崎市の新澤醸造店に依頼し、限定醸造（1.8ℓ 570本）しました。角田産酒米「美山錦」を使用し、市内の故郷かくだ銘酒会の酒店から会員に販売されました。





### 派遣税理士による代理送信申告を開催しました

～角田市農業青色申告会～



△派遣税理士による代理申告風景

角田市農業青色申告会（面川義明会長、会員六十八名）では、税理士による代理申告相談会を三月八日にこの申告会と共催で開催しました。この申告相談会は、この時期に大河原税務署より税理士さんを派遣して頂き開催しているもので今年で十二年目になります。

当日は、会員それぞれがソリマチの農業簿記ソフトや確定申告作成ソフトで入力したデータを国税庁のE-TAXソフトに事前に取り込みプリントアウトをしていたものを税理士さんに内容を確認して頂きました。その後、税理士さんの電子署名を添付して六十七名の会員が所得税や消費税の申告、青色申告の承認届出、消費税の課税事業者届出などを国税庁のホームページを使用してインターネットで申告を行いました。また、E-TAXを使って個人送

信する会員も増え、E-TAXで申告する会員が昨年よりも八名増えました。

### ソリマチ農業簿記操作研修会（決算・確定申告書作成編）を開催

～角田市農業青色申告会～

二月十四日、角田市農業青色申告会（面川義明会長）と角田地域担い手育成総合支援協議会と共催で農業青色申告会の会員らを対象に、農業簿記操作研修会（決算編・確定申告作成編）を公社会議室で開催しました。研修会には午前、午後を合わせて十三名が出席しました。

ソリマチ株式会社より講師をお招きして、ソリマチ農業簿記10のソフトと研修用テキストを使って、減価償却資産の減価償却費の転送計上家事関連費の転送計上の方法など青色申告決算書と確定申告書の作成及び出力までの研修を行いました。長時間の研修にもかかわらず、受講された会員は講師の先生に質問するなど熱心に受講されていました。



### 農政講演会を開催

～公社顧問荒川隆氏～

四月十九日（金）午後一時三十分から、角田市スポーツ交流館多目的ホールで公社顧問の前農林水産省農村振興局長の荒川隆氏を講師に迎え「農業・農村政策の課題と展開」についてと題して農政講演会が開催されました。この講演会は、角田市農業振興公社及び角田市農業再生協議会の共催で開催したもので、昨年十月に当公社の顧問になっていただいた初めて角田市での講演会でした。



当日は、午前中に「道の駅かくた」のオープニングがあり、そちらにも出席して頂き、その後の講演会となりました。多くの認定農業者や農業関係者七十五名が聴講しました。

講演では、最近の農政の動向で、「産業政策」と「地域政策」を車の両輪として進める必要性を、最近の政策と絡めて解説していただきました。農業は農地の上で営まれるものとして、農地は移動不可能。農業経営には地域との調和が不可欠として、「産業政策」と「地域政策」とどちら

か一方では、ミクロの好循環として展開する。規模拡大の効率化、新市場獲得の所得向上とマクロの悪循環としてのリタイア農家出現、耕作放棄地・集落崩壊、人口減少とどう調和させるかが、真の農政の課題としてあります。そのためのヒントとして、産業政策では、形だけにこだわらず、何をどこに売るか。の産業としての肝腎な視点が欠落。地域政策では、短期的な効果ばかり求める姿勢。ではどうするか。何が売れるかのアンテナを高く。売れるものをつくる環境整備。プロがものを売る仕組みづくり。行政が乗りやすい事例として、コマ単作地帯での売れる野菜づくりのための基盤整備（水田汎用化・先進施設栽培の導入）を挙げ、四つの「もちろつ」。知ってもらおう。来てもらおう。つかってもらおう。また来てもらおう。「インバウンド」の「ジレエ」。「農泊」「一泊滞在促進」などのキーワードを上げて話をして頂きました。なお、荒川隆氏は、角田市の出身で、大学卒業後農林水産省に入省し、昨年七月に農村振興局長で退官された方です。





あぶくま農学校  
運営委員会が開催されました

今年も六月十八日(火)にあぶくま農学校第一回運営委員会を開催しました。この会議では、面川農場(株)代表取締役の面川義明氏をはじめとする農業経営体他三経営体、社会福祉法人臥牛三敬会(虹の園)、大河原農業改良普及センター、みやぎ仙南農協、角田市農林振興課、「土の塾」塾長小松光一氏の九名のメンバーで構成されています。



△会議風景

今年も、夏に「土の塾」を開催することが決まり、東京農業大学から三名の参加が決まっています。若干名増える見込みがあり更なる活性が見込まれます。  
「出前塾」については今年も黒区夏の販売イベントと秋の販売イベントに参加し、さらに目黒区の各住区のお祭り等にも角田産の農産物を出品させて頂く予定です。これにより目黒区に対して角田市をよりPR出来ればと考えております。

「風の塾」については、昨年の十一月に全国農業担い手サミットin山形に若手担い手四名が参加し、全国の担い手農家との情報交換及び交流を深めてまいりました。本年度は、静岡県が開催地となっており、静岡県が主催地となっており、静岡県と同様、参加する方向で進めていきます。  
今年度も農業簿記の資格取得に向けて勉強会を開催したいと考えております。昨年受講の十一名の方々に更なる上級を目指していただきたく、十一月の試験に向けて勉強会を開催したい旨を報告させていただきました。

農村体験交流事業報告  
〜東京工業大学留学生〜

角田市と友好都市の東京都目黒区に学び舎のある東京工業大学の留学生十五名が、二月十九日から二十一日まで角田市内でホームステイし、農村の生活・文化を体験しました。  
これは、同大留学生センターが「農村体験交流旅行」として企画したもので、平成二十年度から実施しております。今年で十一年目になります。これまで一七九名の受け入れ実績があります。なお、ホームステイの受け入れは「アジアの農民と手をつなぐ会(面川義明代表)」にお願いしています。今年度は、タイやインドネシア、ドイツ、イタリアなど九カ国の留学生が、七軒のホストファミリーに分かれてホームステイしました。

【二日目】二月十九日  
一日目は、バスで角田宇宙センターを見学し、その後シンケンファクトリーでホストファミリーとの対面式及び歓迎会を行いました。歓迎の途中でお神楽を見学し、余興で学生たちが歌を唄ったり、ダンスを踊った

たりなど次第に打ち解け、盛会裡に終了しました。



△ホームステイ先の人と楽しいひと時・・・

【二日目】二月二十日  
二日目は、西根五区公民館(山の内分校)で蕎麦打ち体験し、A班、B班に分かれて学生たちが打った蕎麦の食べ比べをするなど楽しいひと時を過ごした後、被災地の中浜小学校を見学し、巨理町のイチゴ農園さんでイチゴ狩りを楽しみました。



△そば打ち体験と被災地視察の様子

【三日目】二月二十一日  
三日目は、各自ホームステイ先で終日研修し、東根小学校に訪問し児童と交流し学校給食と一緒に食べたりと角田市を満喫していました。



△東根小学校訪問

【四日目】二月二十日  
最終日は、オークプラザでお別れ会を開催し、留学生・ホストファミリーが感想を述べ、中には感激のあまり涙する留学生もありました。その後、集合写真を撮るなどして名残惜しいうちに帰路につきました。



△お別れ会の様子(オークプラザ)







**目黒角田絆交流実行委員会が田植え体験を開催**

角田絆交流では、5月25日、26日の2日間に目黒区緑ヶ丘小学校の児童とその保護者、校長等24名が来られました。

5月25日の初日は朝早くにバスで東京を出発し、正午に角田市の北郷自治センターに到着後、北郷小学習田前にて集合写真を撮り、絆交流田に移動し、その場所で昼食を取ったあと田植えが行われました。

この日は朝から天気が良く雲ひとつ無い快晴で北郷青年部の指導の下、約30アールの田んぼに「つや姫」を手植えました。

2日目は、朝から震災で被災した山元町旧中浜小学校にて被災地見学を行い、その後絆ポート巨理、角田に戻り西根五区の山ノ内分校にて昼食に手打ちそばを食べ「めぐりつと」にて買い物ツアーは終了しました。



**農地中間管理事業の法律改正の概要**

農地中間管理事業が平成26年に開始して更に事業の加速が必要であり、そのため、地域の話し合いの気運を高めて農地の集積・集約化を進める必要があることから、法改正が行われ令和元年5月24日公布されました。

○農地・集積集約化を支援する体制の一体化

農地利用集積円滑化事業（現在角田市農業振興公社が実施している事業）次の措置をして、農地中間管理事業と一体化する。円滑化事業は廃止となる。

- 機構が配分計画案の作成を求める先に、実績のある円滑化団体が作成できるように。
- 機構の実施区域を円滑化事業と同じ「市街化区域外」に拡大する。
- 機構が円滑化団体の契約関係を簡単な手続きで承継できるようにする。
- この施行期日は、公布の日から1年3ヶ月以内に。

○農地中間管理機構の仕組みの改善

- 機構の借入・貸付の2つの計画（集積計画と配分計画）が必要となるが、市町村の集積計画のみで、一括して権利の設定をする仕組みを創設。
- 配分計画の縦覧を廃止する。
- 利用状況報告の義務付けを廃止する。

○担い手確保等

- 認定農業者制度で、市町村の事務を県又は国が処理する仕組みを創設などです。

**【農業簿記検定受講者募集】**

農業者の所得申告は、「収入金課税」「収支計算」へと変遷し、記帳義務が課せられるようになりました。また、税務上のみならず、個々の農業経営者として経営内容を把握し自立経営に役立てるという意味で、簿記記帳は非常に重要なツールとなっています。つきましては、令和元年度の農業簿記検定3級のための勉強会を下記により開催しますので希望する方は公社までお申込みください。

※「農業簿記2級」の受験に向けての勉強会はありますが、当公社を会場として受験をすることが可能ですのでご相談ください。

- ◎開催予定時期： 令和元年10月下旬から11月中旬まで6日程度
- ◎場所/ 公社会議室等 募集人員/ 7名程度 講師/ 税理士ほか
- ◎負担金/ 公社会員は2,500円（テキスト代・受験料）
- ◎申込み期限 令和元年9月27日（金）まで

**募集のお知らせ**



【4月からの公社の職員体制です。】



事務局長（市より）  
仙石利幸



日下隆博



毛利伝一



馬場紀男



主任専門員（市より）  
山田秀一



斎 正昭



佐藤裕美

